



専らしよう みんなの  
人生を豊かにするために

2021～2022年度 R.I.テーマ

2021.7～  
2022.6

RI会長  
シェカール メータ  
ガバナー  
水村 雅 啓



R.I.第2570地区 第3グループ  
所沢東ロータリークラブ

# 週報

2021年11月4日 別紙

■卓話： 米山記念奨学会 地区統轄委員長 渡邊藤男様(熊谷南 RC)

2021年10月14日例会

米山記念奨学事業は、日本のロータリーが作った独自の事業で、34地区、全地区の合同事業です。1952年に事業が始まって以来、日本で学ぶ、外国人留学生を支援しています。「公益財団法人ロータリー米山記念奨学会」というのは、この事業をおこなうために日本のロータリーが共同で運営する財団です。

この奨学金の最大の特長は「世話クラブ・カウンセラー制度」です。

銀行振込が多い他の奨学金とは違って、米山記念奨学生は、ロータリー活動に参加してもらい、交流することを大切にしています。奨学生は最低月一回、世話クラブの例会に出席しなければなりません

1946年、“日本のロータリーの父” 米山梅吉翁が亡くなりました。「梅吉翁の功績を偲ぶことができるような、事業をやろう」という声が大きくなってきました。当時の日本はまだ食糧事情もよくなくて、弁当持参で熱心に議論をしていたそうです。1952年、東京 RC の古沢会長が「米山基金」の構想を発表しました。「アジアから優秀な学生を招いて学費を援助し、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために“平和日本”を肌で感じてもらいたい。」というものでした。

こうして、東京 RC が始めた「米山基金」は、わずか5年で、日本の全ロータリークラブの最大の奨学事業となりました。2020年度は、全国で883人、国別では、中国が38.6%、ベトナムが13.7%、韓国が8.3%、となっています。累計では世界129の国と地域から21,624人を支援しています。累計では中国34.2%、韓国21.2%、台湾が16.3%と多いのですが、最近ではベトナムの奨学生が急増しており、今では中国に次いで、多くを占めています。

米山記念奨学金は、経済的に困っているから支援するものではありません。国籍で判断もしていません。日本語が上手なだけでも、成績が優秀なだけでも、合格できません。米山記念奨学事業の使命は、日本と母国との懸け橋となる優秀な人材を育成することです。その資質がある留学生を、全国共通の評価項目にしたがって、公平に選考しています。詳しい項目や点数配分は公表できませんが、「学業」・「日本文化の理解度」・「コミュニケーション能力」などを総合的に判断し、公平に選考しています。なぜ、お金に困っている留学生を選ばないのか？米山記念奨学事業が使命とする人材育成に、経済状況は関係が無いと言う。考えかたからだそうです。応募書類には、経済状況や家族構成の欄もありますが、選考の際には評価いたしません。高い教育を受け、将来母国などで影響力のある人物となる可能性のある人物を重視した選考になっております。

当地区では、同じ国が過半数を超えないように考慮し今年度、継続奨学生5名、新規奨学生13名、計18名の奨学生をカウンセラーの皆様にお世話になり各クラブに受け入れをお願いしています。国別では、中国(7名)・韓国(4名)・ベトナム(2名)・マレーシア(2名)・ネパール・インド・ウズベキスタン(各1名)です。来年3月までよろしくお願いします。

また、奨学期間が終わったあともロータリーとの接点を持ち、学友同士の友情を深める学友会という組織があります。学友会は、日本国内に33(北海道地区は二つ・学友会は二地区で一つ)海外には台湾・韓国・中国・タイ・ネパール・モンゴル・スリランカ・マレーシア、ミャンマー9つの学友会があります。学友は、米山奨学会のHPから自分で住所登録をすることができます。学友は、日本国内であれば、どこへ引っ越しても学友会があり、その土地の学友会活動に参加出来ます。

学友達は5月22日のロータリーの森の清掃活動、6月13日の学友総会、新奨学歓迎会。7月11日の委員会セミナー、8月14日-15日の秩父音頭まつり、11月7日の米山梅吉記念館訪問研修旅行、全ての行事に大勢の学友が参加し手伝ってくれております。私達、地区役員も大変助かっておりますし、そういう姿を奨学生達も見て、学友になっていきますので、学友会としての活動も年々、活発になっていると思います。また、他地区の学友会との交流も活発に行っているようです。

## 四つのテスト

- 1 真実かどうか    2 みんなに公平か    3 好意と友情を深めるか    4 みんなのためになるか    どうか



ROTARY CLUB  
OF  
TOKOROZAWA EAST

●例会日：毎週木曜日(12:30～13:30)  
●例会場：ベルヴィザ・グラン  
●住所：所沢市星の宮1-3-5  
TEL 04(2923)4122

●事務局：所沢市星の宮1-4-17  
TEL 04(2928)6363  
FAX 04(2928)6369  
●E-mail：info@te-rc.com  
●H P：http://www.te-rc.com

会 長 梅沢 雅利  
幹 事 藤永 博  
会報広報委員長 野本 俊光



『米山のシンボルマーク』重なり合うハートは「ロータリアン」と「奨学生」を表しています。外国人留学生の支援・交流を通じ、国を超えた絆や信頼関係が、「世界平和を願う”心”」を育てるといふ、創設当時の願いが込められています。二つの手は、この米山と言う事業がロータリアンの手で支えられていることを示しています。



『奨学生バッジ』このバッジは、“日本の心”とも言われる桜、染井吉野をモチーフにして米山の米の文字をデザインしています。花びらを形取った一つひとつが、これから学識や技術を学んで、花開かんとする奨学生の皆さんを表し、また集って満開となる桜の木のように友好の花を咲かせ、日本と世界とを結ぶ大きな懸け橋になることを願っています。

本日の卓話でお願いしたいのは、寄付増進のお願いです。

クラブ会長はじめ米山委員長の皆さんに、この米山記念奨学事業の理解を深めていただき、さらに各クラブの会員の方々にも広めていただき、寄付の増進を図っていただきたいと思ひます。奨学生の受け入れ人数はその地区の留学生数、また前年度の個人平均寄付額、地区の寄付総額等によって決定されます。一人でも多くの奨学生を受け入れて多くのクラブにてお世話していただくためにも、当地区では、一人当たりの平均寄付額が15,000円になるようお願いをいたします。(普通寄付+特別寄付1万円目標)

米山記念奨学生、昨年までは16名でした。今年は18名、来年は16名です。2020-21年度の2570地区の、会員一人の寄付額は、12,665円です。全国平均は、15,055円です。

近年、2570地区ロータリー米山記念奨学委員会では、普通寄付+特別寄付10,000円と言うお願いをしてまいりました。普通寄付+特別寄付10,000円で約15,000円の寄付をお願いしたいと思ひます。2570地区の特別寄付の平均は7,937円でした。

米山の地区役員は、寄付の話ばかりしていると、ほとんどの方が思っていると思ひます。

私も米山の地区役員になるまではそうでした。地区役員になって、奨学生触れ言う様になりました。この子達に何か出来る事はもっとないだろうか。もっともっと多くの留学生に、このロータリー米山記念奨学会と言うチームに参加してもらいたい。と言う考えに変わりました。

ここで私が何を言うよりも、奨学生達と、じかにふれ合っていただくのが一番だと思ひます。そう言う考えで、10月の米山月間、奨学生と私達地区役員は卓話に回っております。

多く奨学達に、日本の素晴らしさ、日本人の気遣い、おもてなし、思いやりを肌で感じてもらい、母国に、特に奨学生の多い中国、ベトナム、韓国、へ、私達ロータリアンの思い、世界平和への願いを持ち帰ってもらいたいと思ひます。

そのために、普通寄付+特別寄付10,000円で約15,000円の寄付をお願いいたします。目指せ 全国平均。地区で奨学生を何人採用できるかは、ほぼ、寄付額の全国比で決まります。1人でも多くの奨学生を採用できるよう、今年度の目標に向けてご協力をお願いいたします。



伝統ある所沢のロータリークラブの皆さん

こんばんは。私は国際ロータリー第2570地区第3グループガバナー補佐を務めさせて頂いております和泉由起夫と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

第2570地区水村ガバナーは、方針の中のひとつに今の社会状況を見据えて良い変化をもたらす行動人として準備を進める事が重要、とおっしゃっています。ガバナーは、こんな時だからこそ「ロータリーを学び直そう」と、1947年(昭和22年)ケンドリック・ガーンシ RI 会長の言葉を引用され「入りて学び、出でて奉仕せよ」RI 会長と地区ガバナー方針を活用して人格を高め合おう、地域社会に奉仕の心を実践しましょう、です。

ガバナーの地区目標は、

- ① 活力ある地区とクラブ作り
- ② 研修でロータリーをもっと知ろう
- ③ 奉仕プロジェクトへのチャレンジ、ポイントは2つ、地区補助金の活用とグローバル補助金の活用(これはいわゆる国際社会、地域社会への貢献を強調されています。)
- ④ 将来のリーダーの育成、青少年プログラムに積極的に取り組む

今年度の RI 会長、そして水村ガバナーの思いをご認識いただいて各クラブの会長さんの方針を推進して頂きたいと思っております。

水村ガバナーはメータ RI 会長と同様に、ライフワークとして地域貢献に力を注がれています。また、ガバナーは強運の持ち主でもあります。平成19年南アルプスで好きな登山中に足を切り落とすか否かの大げがをされてドクターヘリで運ばれましたが、見事回復されました。その時沢山の山の人々に助けられて人生を感謝と優しさを大切に生きる決断をされたそうです。

冒頭にこんな時だからと申しましたが、ちょっと原点に戻りますが、ポール・ハリスは皆さんよくご存知の様に1905年(明治38年)シカゴで弁護士を開業、友情を求めてロータリークラブを立ち上げます。壮年期1935年(昭和10年)有名なエピソードがあります。ポール・ハリスは中国に船旅の途中、日本に立ち寄り大歓迎を受けて記者会見で、なぜロータリークラブを作ったのか、の問いに、即「淋しかった」と、これがロータリークラブの基礎であり、友情の大切さに発展した要因のひとつです。また友情についてポール・ハリス研究の第一人者の広畑富雄氏は「ロータリーの心と原点」の中でこう言っています。「ロータリーが友情だけの団体なら今日のロータリーの大発展はなかった」。同時にこれ程、友情を大事にする団体でなければ今日の発展はなかったと思う。

ポール・ハリスの回顧録で、ロータリー運動には熱い友情が最も大切なひとつであり、多種多様なロータリアンの政治的、宗教的、イデオロギーの難しさには、寛容なロータリーの心が重要だと。そしてロータリアンは皆が平和に暮らす事を望んでおり、寛容な心が何より、と言っています。

昔、ボストン世界大会での有名なラジオ放送で「誰であれ人を愛する人はロータリアンになるポテンシャル可能性がある」とスピーチしています。それでは国際ロータリー2570地区水村ガバナーのスピーチをお聞きください。

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で公式訪問は、延期や時間短縮と変則的な開催になります。今回所沢5クラブの公式訪問では、Zoomの利用による開催となりました。オンラインによる会議などの開催は、今後のロータリー活動の選択肢の一つとなっていくものと感じています。今日は楽しみにしております。

所沢は私にとってとても縁の深いところです。私の家業は織物業で、タオル製品を製造していました。入間市、所沢市、飯能市、狭山市、川越市は織物業が盛んで織物の組合を形成していました。所沢が集積地で、組合の事務所もあり問屋も多く、毎日のように製品を運んでいました。今は繊維産業も衰退し、業者も少なくなりましたが、私を育ててくれた思い出深い土地であります。

私の所属する入間クラブは、1959年に創立された地区内では3番目に古いクラブです。私で3人目のガバナー輩出となります。私は、1993（平成5）年に入会しました。2006年にクラブ会長、2009年から地区増強委員会委員となり、その後クラブ奉仕部門委員長、社会奉仕統轄委員長を務めさせていただきました。振り返ると、入会したての頃は普段話をすることもできない先輩たちに可愛がられ、中堅となって同世代と共にクラブを引っ張り、今は若い世代の人たちが頑張ってくれています。ロータリーは人を成長させながら、世代をつなぎ発展していくところだと思います。

国際協議会でのシェカール・メータ会長のスピーチのお話をします。

今年度の国際協議会は、残念ながらフロリダ州オーランドでの開催は中止となり、バーチャルでの開催となりました。2月1日から10日間の研修でパソコンを前に一日2回の会議と分科会が行われました。大変疲れましたが、印象に残る研修でした。

2021-22年度RIシェカール・メータ会長はインド出身で、自身が多くの奉仕プロジェクトに参加し、その結果、多くの人々の人生が豊かになるのを目の当たりにして、自分よりも先に人のことを考える心構えが重要だと気付きました。そして、会長テーマを「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」としました。

メータ会長のスピーチでのキーポイントをあげます。一つは、「each one, bring one」です。各ロータリアンが新会員一人を入会させようというものです。そして世界の会員120万人を130万にしようと訴えました。二つ目は、女子の差別や不利益の改善。

三つ目は、ロータリー奉仕デーです。二つ以上のロータリークラブによって計画し、参加者の25%以上がロータリアンではない方、そしてロータリーの7つの重点分野に合致していることなどの必要があります。

四つ目は、ポリオ根絶に向けて寄付活動をお願いしたいということです。今月24日の「世界ポリオデー」には、当地区は隣の2770地区と協力し、ポリオ根絶チャリティー「クラシックカーラリー」を実施します。朝大宮を出発し川越を通過して秩父に向かいます。秩父では、秩父ロータリークラブが中心となって募金活動も行います。時間のある方は12時頃秩父ミュージックパークに是非お越しください。

さて、本年度私の地区方針についてお話します。

地区のスローガンを「もっと夢を もっと奉仕を」としました。「もっと夢を」は、ロータリーを学習して、未来のあるべきクラブの姿を描こうというものです。「もっと奉仕を」は、その描いた姿・夢を実現に向けて奉仕プロジェクトを実践しようということです。

そのための目標として、4つの柱を掲げました。

・活力ある地区・クラブを作ろう

魅力ある楽しい例会を心がけ、同時に会員の増強し、各世代が揃ったクラブづくりをお願いします。メータ会長の方針を受けて、当地区では、クラブ2名の純増を目標とします。ご協力お願いします。

・研修の実施で、もっとロータリーを知ろう

ロータリーの標語「入りて学び 出でて奉仕せよ」を実践しましょう。コロナの影響で活動が制限されている時だからこそ、皆で学びましょう。地区の委員会を活用してください。いつでも卓話に伺います。

・多様な奉仕プロジェクトを行おう

今年度は、「ロータリー奉仕デー」の実施に向け取り組みをお願いします。

・将来のリーダーを育成しよう

ロータリーを学ぶ中で、クラブのリーダーを育ててください。そして、地区の役員にもなっていただき今後50年、100年と続くロータリーの人づくりをお願いします。

最後に、ロータリーは、先人の人生から多くを学び、次世代へそれを伝えていくことで、ロータリアンもクラブも成長していくものだと思います。今後も所沢5クラブが世代を繋ぎ、ますます発展し、魅力あるクラブであり続けるよう祈念いたします。